

on call
符 毅欣



03-4500-0456

oncall-japan.com

東京都港区虎ノ門二丁目2番1号
住友不動産虎ノ門タワー17階 グロ
ース虎ノ門Room9

ビジョン

当社は「患者と医療者との架け橋となり、よりよい終末期医療を実現する」をビジョンに掲げ、在宅医療向けにオンコール代行サービス『ON CALL』を提供しております。

在宅医療界の若手経営者へのインタビュー企画「PICK UP! 在宅医療界の若手経営者」。第8回目は夜間・休日のオンコール代行（往診代行）サービスとして2021年4月に「株式会社oncall」を創業された医師符毅欣社長です。サービス構築へのきっかけ、現状、そして今後の展開への思いを熱く語っていただきました。（2025年1月取材）。

病気を治す研究への憧れから医師の道へ

医師を目指したきっかけについて教えてください。

元々、医学研究に興味があったんです。子どもの頃、漠然と死への恐怖のようなものを感じていました。医学によって病気を治すような研究をしたいと思ったことが、医師を志したきっかけですね。医学研究に強い大学ということで京都大学へ進学し、医学全般を学びつつ、研究なども経験させていただきました。



研修医の期間を終えられた後は、泌尿器科医としてのキャリアを積まれていたということで、泌尿器科を選択したのは、何か理由があたりだったのでしょうか。

学生時代から、多岐に渡る医療行為に関心があったんです。泌尿器科は内科的なことから外科的なことまで、幅広く網羅しているといいますか。一つの臓器を一つの科で見続けるというところに魅力を感じたというところですね。

地方で感じた在宅医療の必要性

株式会社on callを立ち上げるまでのキャリアを、簡単に教えていただけますか。

研修医の期間が終了した後、虎の門病院で1年、長野市民病院で2年、江戸川病院で1年の勤務を経験しました。on call事業のはじまりは、長野市民病院で勤務していた時なんです。

はじまりは長野だったのですね。その理由は何だったのでしょうか。

研修医のときの地域医療研修において訪問診療の現場に触れた時から、在宅医療に関心を持ってはいたんです。患者さんの立場に立った医療を提供できるところに魅力を感じ、将来的には何らかの形で在宅医療に関わっていきたいという思いがありました。長野に赴任する以前には、実際にオンコールの受け手側としてアルバイトを経験したこともあります。

そのような感じで少しずつ在宅医療に携わっていた頃、長野市民病院へ赴任することになりました。当時、長野市の在宅医療では夜間や休日の体制が主治医の院長先生に依存していて、課題感を感じたんです。東京で自分が経験してきたような非常勤のオンコールの仕組みを導入できたらというところから、on callの立ち上げに向かっていったという経緯ですね。2021年に株式会社on callを設立して、長野市でテストマーケティングをしました。



当初に感じた難しさ

最初はどのように始められたのですか。スタートは順調でしたか。

長野市にも在宅医療に興味を持つ医師が何名かいたので、その先生方と協力し合って、当番制で診療に行くというところから始めました。ただ、スタートに関しては少し苦労もありましたね。在宅医療を専門で行っている医療機関さんも少なく、在宅医療のためのサポートサービスへのニーズは医療機関にとって、あまりなかったのかもしれない。

結果的に、長野市ではほとんど事業を展開できなかったというのが正直なところですね。まずは東京で事業展開していこうということ、そして長野市民病院での勤務を終えて、2022年に東京へ移りました。

そうだったのですか。東京での事業展開は最初どのような感じでしたか。

元々自分が勤務していた時の同僚や、大学時代の知り合いなどに声をかけてメンバーを集めました。ただ、協力してくれる人を集めるのはなかなか大変でした。医師以外にも、患者さんからの電話を受けるコールスタッフ、担当する医師を迎えに行く往診ディレクターがいます。多くの多職種の方々に体制を構築していますので、今でも人集めには力をいれています。

初めの頃は、地域の訪問看護事業者さんなどに協力してもらったこともありましたが、色々な方々の助けがあって今があるといった感じですね。



on callスタッフ

質の高い医療を提供することへのこだわり

今後の課題としては、何が挙げられますか。

やはり人材の確保ですね。私たちのこだわりでもあるのですが、医師に同行するスタッフも、看護師さんや介護士さんなど、在宅医療を知っているような人をお願いしたいという思いがあります。スタッフ全員が在宅医療の知識を持っていることで、医療の質の担保にも繋がってくるという理由があります。

貴社のホームページからも、「質の担保」を大切にされていることが伝わってきました。

医療の質に関しては、最もこだわっている部分と言っても・・・



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →